



今年もたくさん本を読んで頂きありがとうございました。みなさんと過ごすお昼休みの時間がとても楽しいです。また3学期もお待ちしています。



❀ 冬休み特別貸し出し と 閉館のおしらせ ❀



○貸出期間12/8(月) ~11日(木)○

ひとり5冊まで

※それまで借りている本を返してから  
借りることができます。

ぞうしよてんけん  
蔵書点検ふたび!

●閉館 12/12(金) ~ 2026 1/12(日)●

翌日から再開します。



おすすめ本教えてくださいね



❀ POPづくりにご協力を!! ❀

みなさんの推し本をご紹介ください(紙に書いてください)。応募用紙は図書室にあります。  
書いてくれたら中央図書館に展示されますよ。



今日のおすすめ

『君の顔では泣けない』 君嶋彼方

プールに落ちたことが原因で入れ替わった陸とまなみ。お互いその体を受け入れたまま15年もの月日が流れます。まなみの体に入った陸の視点で物語は進行、いきなり違う性別になっても親には打ち明けず、セクハラ教師からの暴行や結婚、出産、元に戻った時のために相手のことを考えて気遣いながら生きていきます。よくある男女の入れ替わりストーリーとは思えない、引き込まれる作品です。

『一〇五度』 佐藤まどか

将来はイス職人になりたい真と梨々。性格や学校の成績も正反対の二人だけど、同じ夢に向かって互いに寄りかかり合いながら一〇五度(イスの背もたれの角度)の関係で壁を乗り越えていきます。親への反抗や兄弟に対する嫉妬など、中学生のリアルさが伝わる物語です。

『「コーダ」のぼくが見る世界～聴こえない親のもとに生まれて』 五十嵐 大

著者には耳が聴こえない両親がいる。幼い頃から両親の通訳に明け暮れ、聴こえる世界と聴こえない世界を歩き来し、どちらにも自分の居場所を見つけられなかったときもあった…聴覚障がい者だけでなく、あらゆるマイノリティ(少数派)が思っていることや、それに対して私たちはどう接したらよいか、大切なことを教えてくれる、目からウロコの一冊。

『ふしぎなことば ことばのふしぎ』 池上嘉彦

ぜんぜん音のしない様子を「シーン」、実際そんな音はしないのに「ニコニコ笑う」「グズグズする」ってどうして? 「まぶしい声」「やかましい音」など日本語のふしぎなところをついた、「ハー、なるほど!」の一冊。いわゆる話が面白い(説明が上手、たとえツッコミがうまい)人に私はあこがれます。次々とあふれ出る聞いたことのないような言葉を探る人は、もしかしてこの本を読んだのかな?